

ふるさとの民話（第四十一話）

『黄金の神輿』

八幡神社の後方に、周囲七、八間ほどの小さい池があり、「黄金の神輿」が、埋まっているといえます。

その昔、城山の畠山氏が栄えた頃、八幡神社とも深いつながりがありました。そして、八幡神社には、畠山氏の神輿が置いてありました。ところが、城山は、上杉謙信に攻められ、畠山氏は滅びました。

八幡村では、「上杉勢は、きっと、この黄金の神輿も、奪いにくるに違いない。」「奪われるくらいなら、いっそ、この池に埋め、かくしてしまおう。」と、池に沈めてしまいました。

後年、掘ってみようとの話になりますが、誰も、手をつける者がなく、静かにねむっているといえます。

（八幡町 伝承）

→

